

http://www

Happy-Hamakan-News (HHN)

浜田医療センター附属看護学校

浜医看発 2014. 9 月

第 1 卷 第 4 号

浜田医療センター附属看護学校広報誌



目次

■[連載講師紹介]	授業は自由にする・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
■[クラブ紹介]	手話部の活動紹介をします・・・・・・・・・・	3
■[学校祭予告]	学校祭運営委員長、寺坂佳奈子です！・・	4
■[予告]	小児看護学実習Ⅰ・老年看護学実習Ⅰに	5
■[行事報告1]	学生企画 七夕会・・・・・・・・・・・・・・・・	6
■[2年生報告]	基礎看護学実習Ⅱまとめについて・・	7
■[3年生報告1]	小児看護学実習の取り組み・・・・・・・・	8
■[3年生報告2]	母性看護学実習の取り組み・・・・・・・・	9
■[行事報告2]	H26年度第2回オープンスクールを終	10
■[報告]	ホームページ・学校だよりのアンケート	17
■[連絡1]	ハイ・ステージ港町よりお願い・・	18
■	今後の予定・編集後記・・・・・・・・	19

独立行政法人国立病院機構
 浜田医療センター附属看護学校
 697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12
 0855-28-7788
 mail : hiyoko1@lime.ocn.ne.jp
 http://www.hamakan-nh.jp/

発行責任者 石黒眞吾
 編集責任者 中田佳代子
 編集 花子紀子、田儀千代美、藤井光輝、隈部直子
 小田川良子、畑中美保、豊福瑞穂、三家本八千代
 沖田哲美、郷原章
 岩成美樹、松野由香、金山和正



分数の割算があります。÷を×に直します。×の右側の分数（除数）を逆数にします。約分ができるところは「たすき掛け」に、掛算は分母同士・分子同士で行います。これで正解が出ます。計算した結果がなぜ「正解」と言えるのでしょうか？

「進度の速い子」は分数の割算の「手続」が頭に入っているので、スイスイと計算しています。いっぽう「進度の遅れがちな子」のなかには、そもそもなぜ「÷」が「×」に変わるのか、腑に落ちなくて困っている子がいます。一生懸命に物事を考えようとしているのは、実は「進度の遅れがちな子」の方ではないかと私には思えます。その子の「なぜ？」が安心して教室に開かれれば、どの子にも質の高い学習を保証できるに違いありません。

授業は本来、学習者を自由にするものであるはずですが、社会に出たとき、自ら主体的に判断し、他者と手を携えて豊かな課題解決ができるよう、学習者の主体性・自立性・自律性を培う場が授業です。しかし私たち授業者は、学習者を管理し統制する方が得意です。彼らの学習を支えるよりも、私たち自身の「教えた気分」を優先しがちです。彼らの「解らなさ」に向き合うことこそ大切なのに、さながら「後出しジャンケン」のように彼らの出来具合を査察し、それに基づいて彼らを選別する役回りを務めることが多いようです。

このような反省のなかで、いま様々な授業改善や教師の意識改革の試みが進んでいます。むろん、それは学習者の「解りやすさ」や「興味関心」におもねることではありません。目の前の課題を克服する過程で、「自分なりの解り方」や「自分に合う学び方」を見つけられるよう、その機会をたっぷりと与えるのが「授業」の時間です。「社会学」という科目を通して、私が学生に身につけさせたいことは、まさにこのような意味での「課題発見・解決力」であり「協同する力」なのです。



3年生

卒業研修としてケーススタディをまとめています

看護研究演習
講師 藤井光輝

当校では3年次に看護研究演習としてケーススタディを行っています。ケーススタディは事例研究と間違えられやすいのですが、事例研究は可能な限り「これ」といった枠組みを持たず起こった事柄に深く関与し、仮説や理論構築を試みることです。また、事例を通してその中にある共通性や相違点などに注目して一般的なパターンをみつけていこうとする研究です。

当校で行うケーススタディは、ケースを理解して看護の働きかけを振り返り評価することを目標としています。いわゆる、ケースレポートや事例検討ともいえるでしょうか。

3年次看護研究演習の目標は、「体験した事例に対して、文献を用いて考察することで、自分の看護実践と理論との関係を明確にする」、「理論的思考や科学的なものの見方、考え方を身につける」、「プレゼンテーション方法の理解と他者に伝える能力を養う」、「自分の看護観を明確にする」です。

この目標を到達するために各教員は、2年次行われた看護研究という授業の積み上げと3年次の学生の成長に合わせて指導しています。振り返る中で、相手（患者やその家族）と考えが異なることに客観的に気づいたり、看護とは何かという看護観を明確にしていきます。この振り返りは非常に時間がかかります。学生と教員が共に「看護」を語り合い、先行研究を検索し、自分の関わりの意味づけを行っていきます。その過程は看護が形になるのでやりがいでもあり、出来ていない自分を見つめ直すために苦しさにもなります。

今は10月21日から10月24日に開催されるケーススタディ発表会に向けて実習と併用しながら発表の準備を進めています。発表会には病棟の方々や外部講師などが参加して下さる予定です。また、発表後の質疑応答やご意見を頂くことになっています。このケーススタディをまとめ発表することが、患者に少しでも良い関わりがしたいと思ひ学習し続ける力となったり、基礎的な研究の基盤となったり、他者に伝える力をつけていくこととなります。そして、発表会が終わった後に「看護師って素晴らしい！」と思える自分に気づいてもらえると信じています。

手話部の活動紹介をします

手話部 山根加奈未

こんにちは。手話部です。今回はボランティアへの取り組みとして手話部の活動を紹介したいと思います。現在手芸部の部員数は一年生5名、二年生8名の合計13名で活動しています。そして、講師として市役所に勤務されている岩井さんにお越しいただき、手話の指導をいただいています。

活動内容としては、手話部で地域の方に喜んでいただけるような曲を決め、その曲の歌詞に合わせて手話を行い、地域や学校の行事にて発表しています。そのために月に約2回集まり、企画や練習をしています。練習の風景は、みんな楽しみながら取り組んでおり、温かな雰囲気です。ナイチンゲール生誕祭に向けて練習をした際は、何度も曲に合わせて、時間の合間を縫ってみんなで協力し合いながら練習を行いました。一年生は覚えが早く、初めて手話をする曲にも懸命に取り組み、私たちについてきてくれました。二年生一同、本当に頼もしく思っています。

今年度の取り組みとしては、5月にナイチンゲール生誕祭の企画として地域の方へ日頃の感謝の気持ちを伝え、交流するということから老人ホームの偕生園に伺いました。そこでは、普段偕生園の利用者の方が使われている車椅子の清掃をさせていただいた後、手話でAIの「ハピネス」と日本のチャリティーソングである「花は咲く」を披露させていただきました。利用者さんは私たちの手話を見て、曲に合わせた手拍子をしてくださったり、笑顔を見せてくださいました。そして、私たちも喜んでいただける姿や笑顔をもらうことで、みんなで頑張ってきた達成感や気持ちを伝えるということの喜びを感じられ、よい経験となったと思います。これからも地域との関わりを大切に、交流を増やしていきたいと感じました。

今後の手話部の取り組みとしては、10月学校祭、12月クリスマス会で手話を披露させていただきたいと考えています。地域の方々との交流を「手話によるコミュニケーション」の重要性、基本的人権として保障されるために言語として手話を使える環境を整えていく必要性を伝えていきたいと思っています。今後も手話部のみなんで協力して頑張りたいと思うので、皆様応援よろしくお願いします。





学校祭のお知らせ

テーマ

「幸～広げよう地域の輪 繋げよう未来への絆～」

■開催日時・場所

◎日時／平成26年10月18日（土）、19日（日）

*19日（日）は浜田駅北医療フェスタと同時開催です。

◎場所／浜田医療センター附属看護学校

※詳しくは、学校ホームページに掲載します。



◎内容／1日目

映画「うまれる」の上映会と命についての学びの会

2日目

少年少女合唱団、石見あらがね太鼓・太鼓体験、子ども神楽、フリーマーケット、各種模擬店
無料カフェスペース

学校祭運営委員長、寺坂佳奈子です！

2年生 寺坂佳奈子

今年の学校祭のテーマは「幸～広げよう地域の輪 繋げよう未来の絆～」に決定しました。昨年の学校祭は駅北医療フェスタと合同で行い1770人という多くの方々に来ていただくことができたので、今年も活気ある学校祭を開催したいと考えています。そして来ていただいた方々に学生の日頃の学びを知っていただきたいと思います。また皆様にも医療や看護について考えてもらう機会になればと思います。

今年は運営・模擬店・フリーマーケットなど9つのグループに分かれて学校祭を盛り上げようと各グループ様々なアイデアを駆使して企画を考えています。意見が一致せずなかなか企画がまとまらないことも多いのですが、61期生を中心に昨年とは一味違った学校祭を行えるように全学年が力を合わせて準備をしています。1日目は映画「生まれる」を上映し、地域の方と命について考える機会を持ちたいと考えています。2日目は駅北医療フェスタと合同で学校祭を開催します。地域全体で楽しめるような学校祭を目指して頑張りますので、両日ともぜひ足をお運び下さい。



9月2日～12日、9月16日～26日の期間で、2年生は小児看護学実習Ⅰ・老年看護学実習Ⅰを行っています。小児看護学実習Ⅰは、みのり保育園・石見幼稚園・おおぞら保育園へ、老年看護学実習Ⅰはケアハウス美川、浜田市シルバー人材センターで実習させていただいています。

小児看護学実習Ⅰでは、こどもとの関係づくりを体験しながら、健康なこどもの特徴や日常生活を理解していくこと、成長発達を促せるこどもとの関わり方、保育を体験することを目的としています。

老年看護学実習Ⅰでは、高齢者の方の健康に対する思いや、いきいきとした生活をしている高齢者と関わらせていただき、健康な生活を継続していくことを視点に、高齢者の活動を支える社会保健システムについて考えることを目的としています。人の一生を通して、「人間が存在することはどういうことか」ということを深く追求する姿勢を養う大切な実習と位置付けています。

実習が始まり、学生たちは、老年看護学実習Ⅰでは、高齢者が興味をもっておられることに焦点を当てて、健康な生活ができるようにと健康教室を開催しました。クイズや記憶ゲーム等の考えるものや、ボーリングや輪投げなどの体を使うものを組み合わせ、参加者とともに楽しみながら開催しました。小児看護学実習Ⅰでは、こどもたちとお楽しみ会として、踊りや歌を交えながら、手洗いや歯磨き等、楽しんで身につけられるような保育活動を行っていました。

学生たちは、6月に行った基礎看護学実習Ⅱでの経験をもとに、初めて会う小児期・老年期の方に対して、相手のことを思いやりながら声をかけ、活動を共にしています。この経験・学びをもとに、今後の各看護学実習での関わり、対象理解、援助につなげられるように支援していきます。



老年看護学実習Ⅰ 健康教育の様子



小児看護学実習Ⅰ お楽しみ会の様子

七夕飾りとお披露目を7月2日から7月11日の2週間、病院の正面玄関に飾りました。来院者が自由に七夕に願いを書いて笹に飾り付けます。病棟に入院されていた方の願いは病棟で回収して、七夕の会の日に願いを込めて結びました。7月11日に出雲大社石見分祠に奉納致しました。奉納した短冊は646枚にもものぼり、「おじいちゃんが元気になってほしい」「食事をおいしく食べられるようになりたい」「子供を授かりますように」など多く願いが込められていました。この短冊の願いを見て看護師として私たちのできること、これから考えていかなければならないことなど患者やその家族のために何が私たちの課題なのか教えてもらえた気がしました。

7月7日に七夕会を開催しました。「自治会主催で多くの方々に短冊に願いを書いてもらい、各々が希望をもち、季節を感じてもらう機会とする」、「看護学生と学校職員、病院の職員の皆様、保育園の園児と職員、患者とその家族とのつながりを持ちみんなで支え合える雰囲気をつくる」を目的として開催しました。会では保育園児、看護学生による歌や紙芝居などが行われました。入院されている方も車椅子で玄関まで来ていただき、会では笑顔で一時的な安らぎを感じていたようでした。



2年生は、6月18日～7月4日にかけて、基礎看護学実習Ⅱを行いました。基礎看護学実習Ⅱは、基礎看護学で学んだ理論・技術・態度を看護活動の場で展開するとともに、看護過程を用いて対象に必要な看護を実践するものです。

実習当初は緊張が強くみられた学生たちは、患者、指導者と関わりをもつことにより、信頼関係を気付き、いきいきと実習に取り組んでいました。実習終了時の振り返りでは、「看護過程の展開をすることによって、患者の疾病だけでなく、その方の健康に関する考え方や、入院前の生活、患者の性格、現在のADL等、全体像を捉えた看護ができ、それがよりその人の個別性に寄り添った看護の実践につながる」と実感していました。そのうえで、患者に合わせた看護問題の抽出・立案、実践の難しさを感じている様子でしたが、学生は日々対象とどのように関わっていくかを考え、指導者に相談しながら行動することができていました。

また、7月24日には、実習指導者も参加して基礎看護学実習Ⅱのまとめとして、学生全体で振り返り会を行いました。そこでは、メンバーの事例をもとに、行ってきた援助や患者理解について振り返り、意味づけを行いました。何故そのように捉えたか、どのように考えながらその人に合った援助を行っていたか、他者の経験を聞くことにより、一人ひとりに合った看護を提供するために重要な視点をえられていました。

このような振り返りを行うことで、「個別性のある看護が重要であるということは、今までも授業などで学んできたことであり、自身でも理解していたつもりでした。しかし、実習時に情報収集・分析をすればするほど、一般論だけでは患者に適した看護はできないのだと痛感しました。」という学生もいました。また、まとめの会で発表し、意見交換をすることによって、全員がそれぞれの患者のことを考えながら、「看護」を模索し、実習を行っていたことがわかりました。

今回の実習により、個別性の看護を行うための視点や自己の課題、今後強化していく点について気づくことができています。また、社会人としての報告・連絡・相談の重要性にも気づけていますが、今回の実習では課題と感じた学生も多くいました。今後、各看護学実習では、より対象に合わせた看護を考え、実践していく実習となります。今回の振り返りをもとに、強化して支援していきたいと思えます。

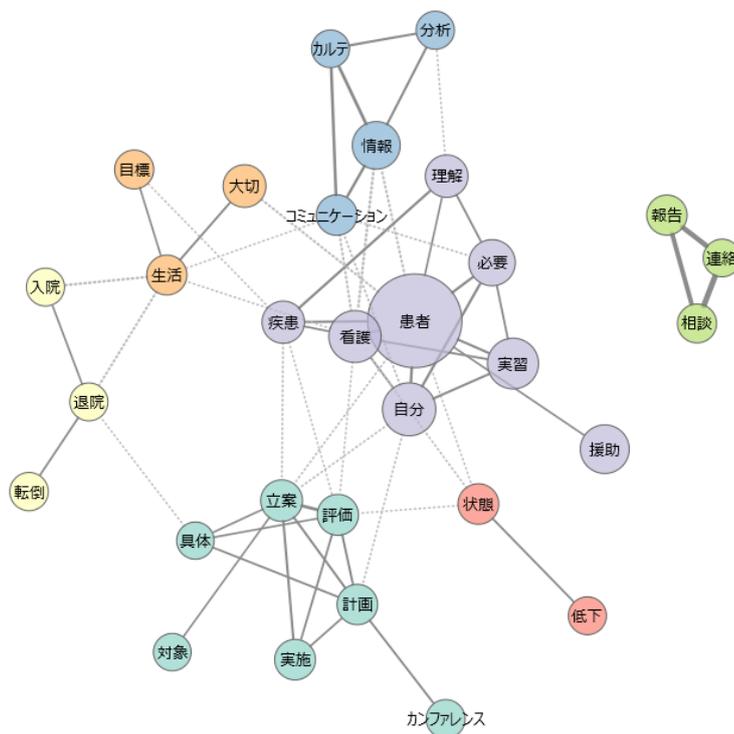


図1. テキストマイニングによる抽出

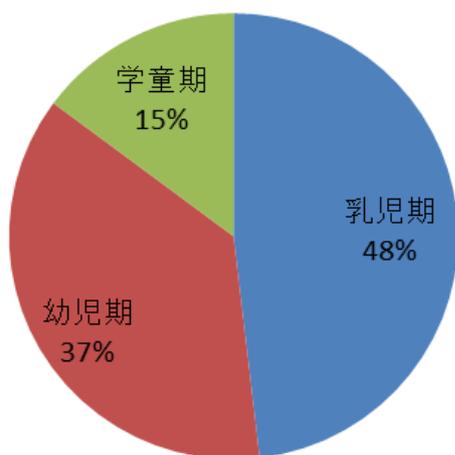
実習終了時の振り返り用紙(35名分)をもとにテキストマイニングによる分析を行った。レポートに出現した「名詞」を抽出し、出現パターンの似通った語が線で結ばれる。語が近いから関係するというわけではなく、線が太いほど相関が高く、バブルの大きさが大きいほど出現頻度が高い。

小児看護学実習Ⅱでは「こどもの成長発達および健康レベルに応じた小児看護実践に必要な基礎的能力を養うこと」を目的に病棟と外来で実習を行う。今年度は実習前のこどもへのフィジカルアセスメント演習に、タブレットを導入した。学生はそれぞれ看護学生、母親または父親、指導看護師の役になり、設定された患児のフィジカルアセスメントをロールプレーで行う。その様子をタブレットで撮影し、客観的に自己を見つめることで、技術の向上につなげている。学生は、表情がこわばっていることや声掛けが少なくなっていることを自ら気がついて意識して行うようにしていた。また、それぞれの役をすることで、フィジカルアセスメントをするときにされる説明によっては、両親はどこにいて、何をしたらいいのかわからないことや不安になることに気がつき、声のかけ方や内容を工夫していた。

次に、小児看護学実習で学生が受け持つ患児の発達区分と疾患について、前年度のデータを参照に説明する。受け持ち患者の発達区分については、免疫機能が未熟であるため、感染症等に罹患し、重篤かしやすい乳児期及び幼児期の患者を受け持つことがほとんどである（表1）。そのため、学生は自己が感染の媒体とならないように1処置1手洗いを徹底するとともに、自己の健康管理をしっかり行う。

受け持ち患児の疾患については、上気道炎、咽頭炎、気管支炎、肺炎などの呼吸器感染症が53.7%であった。次に気管支喘息が12.9%が多かった。過去の国家試験問題になっていた疾患である川崎病やネフローゼ症候群、骨折、熱性けいれん、胃腸炎を受け持っている学生も数名いた（前年度データ参照）。入院日数が数日と短く、急激に回復や悪化をするこどもの姿を目の当たりにし、学生は学習の必要性を感じていた。学生のこの子のためにどうにかしたいという思いを大切に、看護を考えていける実習にしていきたい。

受け持ち患児の発達区分



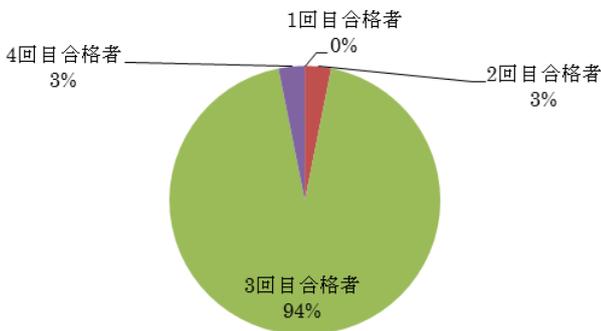
基礎看護教育における母性看護学実習は、周産期を中心に1組の母子とその家族を対象に看護実践能力を養う実習です。また、分娩に立ち会い、分娩の痛みを目の当たりにすることで子どもを産み出す母親の偉大さを実感し、自分の母親に対する産み育ててくれたことへの感謝の気持ち、さらには人が生まれてくること自体を奇蹟であるということを感じるなど“心を育てる”実習でもあります。

浜田医療センター附属看護学校では、2年生後半から3年生で母性看護学実習を行っています。12日間の中で産婦人科外来（妊婦の看護）1日、新生児室（新生児の看護）2日間、病棟（産婦・褥婦の看護）9日間の実習を行います。

青年期にある学生は出産経験がない者がほとんどで、今までに赤ちゃんに接することや子どもの世話の経験も少ないため、妊娠・分娩によって変化する現象や出産・育児についてイメージしにくく、母性特有の言葉を覚えることすら難しいのです。

「母性特有の言葉を覚えてもらいたい、学生自身が自ら探究心をもち学習に取り組んでほしい」という思いから、今年から、実習が始まる前に『実習前確認テスト』を行っています。100問の問題にすべて正解して実習に行きます。「どんな問題が出るんだろう」「どうしよう・・・合格しなければ・・・」とみんなドキドキです。一生懸命学習に取り組みます。1回目のテストを受け、結果を見て「やばい！」とみんな愕然とします。私も愕然とします。今までに実習を終えた32名の『実習前確認テスト』の結果です。

【合格したテスト回数】



【テスト回数による平均点】

- 1回目・・・38点
- 2回目・・・93点



再テストは1回目と同じ問題で行っています。しかし、御覧のように回数を重ねなければ合格は難しく、学生にとっては大変なことです。合格して実習に行っても、わからないことが沢山出てきます。そこで、学生は「やばい・・・わからない・・・」と焦りを感じ、教科書や参考書を開き無我夢中で調べます。ある学生は、「先生、こんなに教科書や参考書で調べて勉強するのは今までで初めてかもしれません！」と言っていました。また、「実習が終わって、国家試験の問題を解いてみたら、すごい解けました！」や「先生、模擬試験で点数が取れました！」という声も聴いています。

わからないことを自分で調べ、対象の現象と学習したことが一致したとき初めて理解することができます。このような体験ができるとう学習に面白さを感じ、もっと深めたいという気持ちになるのではないかと思います。学生の自分で学んでいくという姿勢を支えていきたいと思ひます。

7月26日(土)浜田医療センター附属看護学校オープンスクールを開催しました。午前中は小学校1年生から中学校3年生までの16名が、赤ちゃん人形で沐浴をしたり、生徒同士でハンドマッサージをしたり、聴診や血圧測定をしました。意見から、看護学校で学ぶことを知り、看護師への興味・関心が高まったようでした。

午後からは高校生が45名県内外より参加してくれました。午前中の企画に加え、採血と創傷処置について、体験しながら学びました。参加者は自分の血管を触ってみて、その感触に驚いたり、ハンドマッサージをしてリラックスしたりしていた。また、「赤ちゃんってこんなに重いんですね」、「この学校に興味をわきました」などたくさんの感想を頂きました。暑い中でしたが、担当した学生も準備から片付けまで一生懸命に看護の心を伝えてくれました。参加してくださった方が看護について興味を持ったり、自分の生活の中で役立つ体験になれば幸いです。

午前

目的：オープンスクールを通して、看護について知ってもらう。また、興味を持ってもらう

目標：学生が積極的にコミュニケーションをとりながら、様々な援助を体験してもらう

スケジュール

予定時間	9:00~9:10	9:15~9:35	9:40~10:00	10:05~10:25	10:35~11:10
1G	開会式	赤ちゃんわくわくお風呂の時間 ～沐浴体験～	知ろう！みんなの身体 ～聴診体験～	ぬくもりで繋がるみんなの「wa」 ～ハンドマッサージ～	交流アンケート 閉会式
2G		ぬくもりで繋がるみんなの「wa」 ～ハンドマッサージ～	赤ちゃんわくわくお風呂の時間 ～沐浴体験～	知ろう！みんなの身体 ～聴診体験～	
3G		知ろう！みんなの身体 ～聴診体験～	ぬくもりで繋がるみんなの「wa」 ～ハンドマッサージ～	赤ちゃんわくわくお風呂の時間 ～沐浴体験～	
場所	第一、二教室	実習室・図書室・第三教室			第一、二教室



午後

目的：オープンスクールを通して、浜田医療センター附属看護学校を知ってもらう

目標：看護を目指す人や当校に進学したいと思う人を増やす

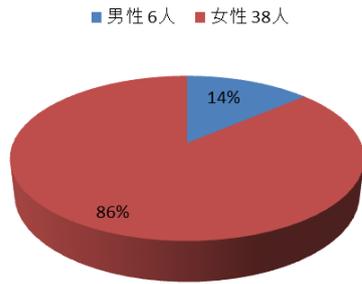
スケジュール

	13:00~13:10	13:15~13:40	13:45~14:10	14:15~14:40	14:45~15:10	15:15~15:40	15:50~16:30
1G	開会式	日常生活に話かせる応急手当 ～処置体験～	赤ちゃんわくわくお風呂の時間 ～沐浴体験～	見て、触る！採血を学ぼう！ ～採血体験～	知ろう！みんなの身体 ～聴診体験～	ぬくもりで繋がるみんなの「wa」 ～ハンドマッサージ～	交流アンケート
2G		ぬくもりで繋がるみんなの「wa」 ～ハンドマッサージ～	日常生活に話かせる応急手当 ～処置体験～	赤ちゃんわくわくお風呂の時間 ～沐浴体験～	見て、触る！採血を学ぼう！ ～採血体験～	知ろう！みんなの身体 ～聴診体験～	
3G		知ろう！みんなの身体 ～聴診体験～	ぬくもりで繋がるみんなの「wa」 ～ハンドマッサージ～	日常生活に話かせる応急手当 ～処置体験～	赤ちゃんわくわくお風呂の時間 ～沐浴体験～	見て、触る！採血を学ぼう！ ～採血体験～	
4G		見て、触る！採血を学ぼう！ ～採血体験～	知ろう！みんなの身体 ～聴診体験～	ぬくもりで繋がるみんなの「wa」 ～ハンドマッサージ～	日常生活に話かせる応急手当 ～処置体験～	赤ちゃんわくわくお風呂の時間 ～沐浴体験～	
5G		赤ちゃんわくわくお風呂の時間 ～沐浴体験～	見て、触る！採血を学ぼう！ ～採血体験～	知ろう！みんなの身体 ～聴診体験～	ぬくもりで繋がるみんなの「wa」 ～ハンドマッサージ～	日常生活に話かせる応急手当 ～処置体験～	
場所	第一、二教室	実習室・図書室・第三教室・ゼミ室1, 2, 3				第一、二教室	

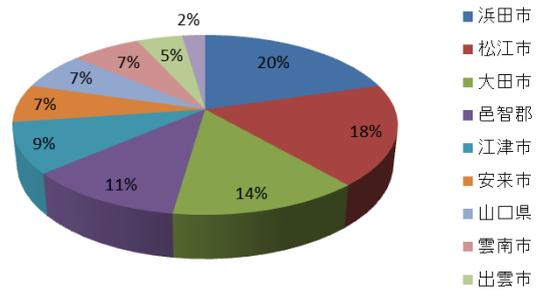


参加者様からのご意見

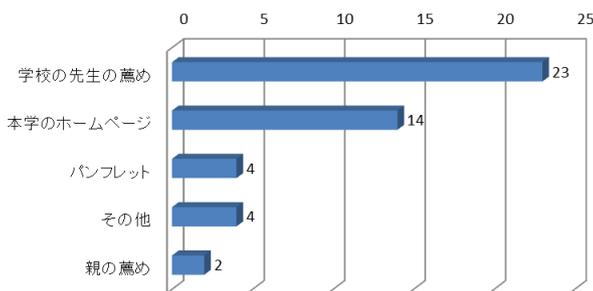
アンケートにお答えくださった方の性別



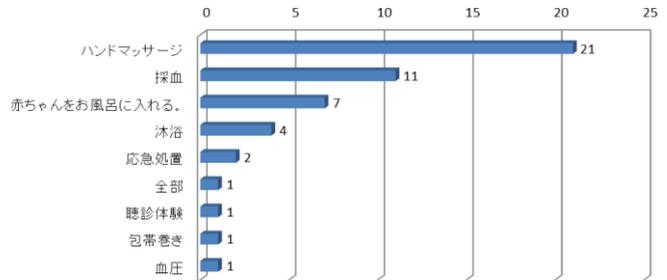
アンケートにお答えくださった方の居住地域



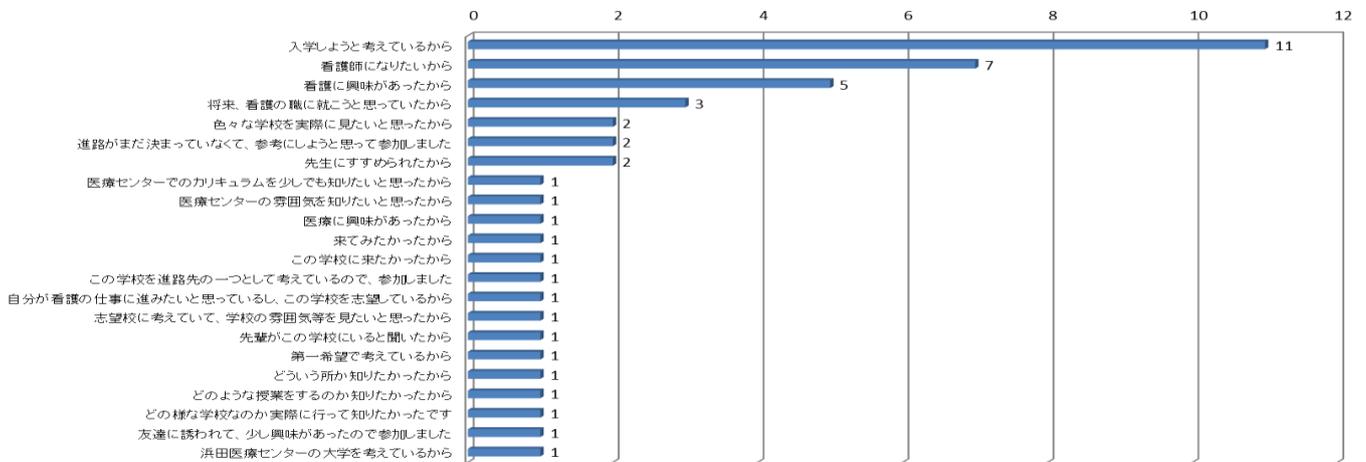
2. 本日のオープンスクールをどのような方法で知りましたか。(複数回答有り)



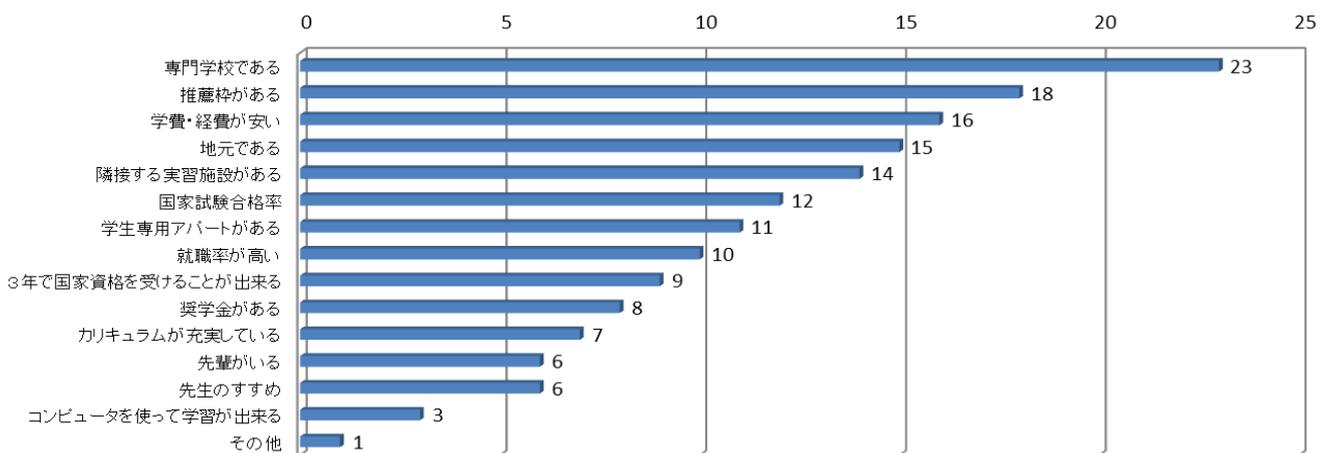
4. 本日のオープンスクールで興味を持ったのは何ですか。また、「こんなことも体験したかった」(自由記載)



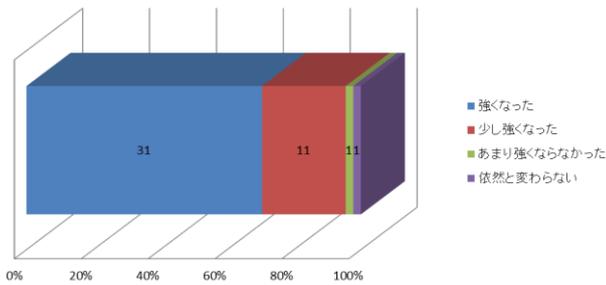
3. なぜオープンスクールに参加しようと考えましたか。(複数回答有り)



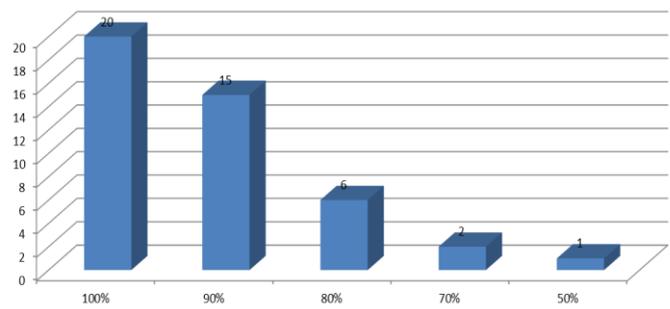
5. 学校選択のポイントは何ですか。(複数回答可)



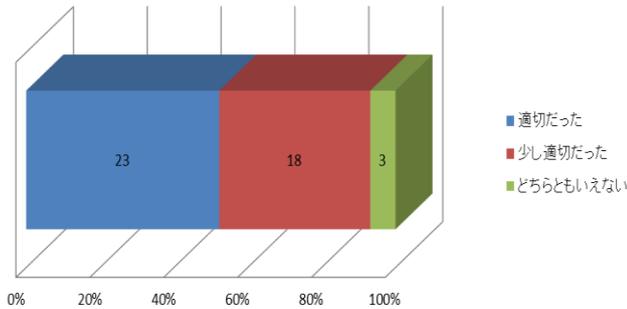
6. 本校への興味・関心は強まりましたか。



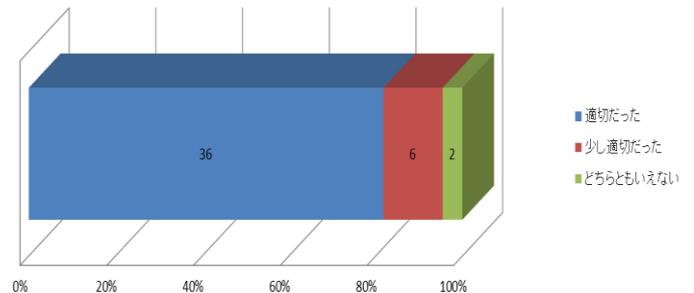
7. オープンスクールに参加してあなたの満足度は何%でしたか。



8. 本日の時間配分は適切でしたか



9. オープンスクールの時間は適切でしたか



10. その他、本日のオープンスクールに関するご意見・ご感想を聞かせて下さい

- 来た時はとても緊張していたけれど、みなさん優しくとても楽しかったです。この学校にとっても興味がわきました。
- とても楽しかったです！
- 沢山体験ができてとても充実しました。優しく話しかけて下さってとても楽しく過ごせました。ありがとうございました。
- 初めて浜田医療センター附属看護学校に来ました。看護の仕事にはあまり興味がなかったのですがこれからの進路選択のために役立てていきたいなと思いました。
- 初めての看護体験だったので今回浜田医療センター附属看護学校はとても楽しく、学ぶことができました。さらに看護の道に進みたいという意欲も強くなったので来てよかったと思いました。
- すごく楽しかったです。いろんな体験ができて良かったです。まだ、第1をどこにするか悩んでいるけど、ここに来てみたいなと思いました。すごく良かったです。ありがとうございました！
- とても楽しかったです！いろいろな体験ができて良かったです。入りたいと思いました。ありがとうございました。
- 楽しかったです。ありがとうございました。
- 以前からオープンキャンパスに行つてこの学校のことを知りたいと思っていたので参加することができて本当に良かったです。
- 話をいっぱいしてもらって、知らないことも、知れて良かったです。より深く関わってもらって進学したいなと思いました。勉強がんばります！
- 体験の1つ1つの時間は短かった所もありましたが、知らなかった事が沢山あって驚きました。とてもいい体験ができて良かったです。来年も機会があったらオープンスクールに来たいと思っています。
- とても楽しかったです。ありがとうございました。
- 学生さんがとても優しく話しかけてくださり、嬉しかったです。
- 今日オープンキャンパスに来て良かったなと思いました。色んな体験をしてとても楽しかったです。体験で他の所よりも細かく教えてもらいとても良い体験になりました。
- とても楽しかったです。赤ちゃんの沐浴がとても楽しかったです。ハンドマッサージもとても気持ちよく、学生の方と話しやすくてとても楽しかったです。
- 今までしたことのない体験をすることができ、とても、良い体験になりました。
- いろんな体験ができて、学ぶことがたくさんありました。この学校へ進学したいという気持ちがより強まりました。
- とても楽しそうな学校だと思いました！！ 入れるように頑張ります。
- とても分かりやすく説明をしていただいて良かったです。
- すごくみんな優しい方ばかりで楽しかったです。頑張つて勉強して素敵な看護師になろうと思いました。
- 初めてオープンスクールに参加しました。すごく楽しいオープンスクールでした。すごく参考になりました。
- ハンドマッサージがとても楽しかったです。
- 初めてする体験もたくさんあり、時間もたっぷりあったので充実していました。
- 学校の雰囲気わかって良かったです。ありがとうございました。
- この学校の雰囲気などを知ることができ、とても参考になりました。進学への希望がさらに強まりました。
- 進路先のことで迷っていて、ちょうどいい時期にあつて良かったです。
- 将来のためのとても大切な体験になったと思うので良かったです。進路選択に役立てたいと思います。
- ハンドマッサージや包帯巻きは他ではなかなか体験できないものだったので、感激でした。貴重な体験をありがとうございました。
- 初めて経験したことがたくさんあつて、勉強になったし、全体的にとっても楽しかったです。志望したい気持ちが強くなりました。
- とても楽しかったです。まだ、1年生なので来年もぜひ来たいと思いました。とっても分かりやすく優しい対応だったので印象がとても良かったです。

オープンスクールの振り返り

オープンスクール

実行委員の振り返り

実行委員 雑岡沙弥香



オープンスクールを行うあたり、実行委員は主に企画・事前準備・前日準備・開閉会式・当日の進行を行った。

企画は5月上旬から行った。時間や場所だけでなく、今回のオープンスクールで何を行うか、学生の人数はどうするかを話し合った。ブースが決まり、各ブースのリーダー、副リーダーを立てた後は各ブースに企画を任せた。しかし、実行委員と各ブース間の連携が取れておらず、行き違いが起きてしまった。そこで、各リーダー、副リーダー、実行委員、担当の先生で集まり話し合いを行い、オープンスクールの方針、各ブース内での疑問点を話し合った。その結果、オープンスクールの方針や当日までに何を行わなければならないのかを全員で見つめなおすことが出来た。このことから、話し合いはみんなの意思を統一するために必要であり、みんなが同じことを目標とすることで何事もスムーズに進むことを学ぶことが出来た。

事前準備として、パンフレットの作成、教室の配置、開閉会式の言葉、進行、学校紹介ムービーの作成を行った。学校紹介ムービーは一年生にも写真回収の協力をしてもらい、学年ごとの行事についてまとめることが出来た。準備期間を長く持つことで、直前に焦ることも無く準備を終えることが出来た。準備期間を長くもつことで、直前に焦ることも無く準備を終えることが出来た。事前準備の振り返りとしては実行委員内での役割がはっきりとしていなかったため、準備をする人が偏ってしまった。そのことから先生に助言をいただき、実行委員内で総リーダー、副リーダー、ブース総リーダー、開閉会式リーダーを決め、役割を分担した。このことから、役割を振り分けることでその人のやらなければならないことがはっきりとし、準備を効率よく行えることを学んだ。

前日準備では、第一教室と第二教室を実行委員で準備を行った。事前に必要なものや配置を決めていたため、早く準備を終わらせることが出来た。準備が終わった後は各ブースの進行状況を聞いて回り、各ブースの状況を把握することが出来た。事前の準備がしっかりしていると自分がこれから何をしなければならないのか、何が必要物品なのかを把握することが出来るため重要であると学んだ。

開閉式では、開閉会式の言葉、進行を行った。開閉会式の言葉は一年生が行い、式の進行を二年生が行った。式は特に問題もなく行うことが出来た。

当日の進行では、熱中症予防や午前の机の配置変更や交流会の進行を行った。

熱中症予防として、廊下に先生方が買ってきてくださったスポーツドリンクを参加者に飲んでもらえるように促した。当日はとても気温が高く、廊下がとても暑くなっていたため熱中症の危険が高かったが、学生、参加者ともに体調不良者が出る事が無かった。このことから、水分摂取のスペースと時間を設けることは来年もする。

午前はオリエンテーション後に荷物と机を動かしたため、荷物が誰のものか分からなくなってしまった。そのため、午後は最初から机を作っておくことで、荷物が誰のものか分からなくなることを防いだ。事前にそのことが予測できたならよかったが、午後の部で修正することが出来てよかったと感じる。

アンケート用紙も机と同様に午前はアンケート用紙を渡すのを忘れてしまい回収率が低かったが、午後は午前の反省も活かし、パンフレットに挟むことでアンケートの配布漏れを無くし、またアンケートの回収も玄関ホールではなく教室内で回収することで回収率を上げることができた。両者とも午前の失敗により改善法を実行委員で話し合い、実施することが出来た。午前の振り返りを行い改善策を挙げることによって午後はスムーズに行うことが出来たため、振り返りや話し合いを行うことが重要であると学んだ。

交流会では、当日に参加者の数が増えたりと一つのテーブルに何人座るのか把握し準備することが難しかった。その場合は、朝に参加者の数の確認を行い、学生については各ブースでの出席をとる等して人数の把握を行うことが必要であった。また、交流会では学生同士で話しているがどうしても目立ってしまった。参加者であまり話をしていない人もいたため事前に積極的に話しかける声掛けが必要であったと考える。実行委員としては交流会の際はただ見ているだけだったので、実行委員も交流会に参加する形で企画を知っておくべきではないかとの意見がでた。また、交流会の時間を少なかつたとの声も上がっているためこの反省は次回のオープンスクールに活かしていきたい。

当日の全体を通しては、一年生と二年生が協力して行うことで両学年にオープンスクールの流れを把握してもらうことが出来た。

実行委員の経験を通して、一つのイベントの企画をたてることや人をまとめること、指示を出すことの難しさを学ぶことが出来た。一人で行うのではなく回りの協力を得ること、なぜこれをしてほしいのか省略せずに話すことが大切であると学ぶことが出来た。

オープンスクール

フィジカルアセスメント担当の振り返り

フィジカルアセスメント担当 清水洋佑

今回のオープンスクールでは、午前・午後を通して小学生・中学生・高校生に対してフィジカルアセスメントの体験をしてもらいました。

午前中では主に、小学生・中学生を対象に、午後は高校生を対象に行いました。

- ・説明について、内容が難しくもう少し噛み砕いて説明する必要があるがあった。
- ・対象の児童・生徒に対してのコミュニケーションが不足していたため、活発なコミュニケーションをとることができるとよい。

振り返り

午前・午後ともフィジカルアセスメントはスムーズとは行かないが、上手くいったと思います。

* 多少の工夫は必要だと感じましたが、次回につながる良い機会だったと思いました。



今回のオープンスクールにおいて、採血の体験は、モデル人形に対する採血の見学や、実際に使用する物品の見学を高校生に行ってもらうことで、採血に対し興味を持ってもらうことを目標とした。今回は、安全・倫理面なども考慮したため採血を実際に体験してもらうことはせず、物品に触れてもらうことまでの体験とした。

●採血についての説明

採血についての説明では、あらかじめ作成した模造紙を使用し、採血の見学の際はかなり近くで見学してもらうことができた。模造紙は、採血に必要な物品、手技の説明などをわかりやすいようにイラストなども取り入れて、分かりやすいように工夫した。特に、刺入部位についてはイラストで血管などを示して説明し、加えて高校生の腕で確認することで、高校生も興味が増したようだった。

説明の際にはクイズを取り入れたり、実際に駆血帯を学生同士で巻いてもらったり、腕の血管を触ってみたりと、高校生がより深く採血について理解できるよう工夫した。高校生も和やかな雰囲気の中で、驚いたり興味深そうにしたりといろいろな表情が見られ、楽しみながら学ぶことができたのではないと思う。

●採血の手技の見学・物品の見学

採血はモデル人形・簡単くんを用いて学生が行う手技を高校生に見学してもらった。モデル人形を囲んでもらう形で見学してもらい、手技を見学してもらいながら、いまなにをしているのかということの説明した。高校生は、遠慮して固まってしまうがちなので、看護学生が積極的に声をかけて手技がみえる位置に誘導するとよい。

物品の見学ではあらかじめシリンジや注射針を机に並べておき、手技の見学が終わり次第見学を行えるようにした。採血のイメージが湧きやすいように、実際にシリンジと注射針を組み合わせて触ってもらった。ただ、安全面を考慮して注射針のキャップは取らないようにし、高校生にも説明をした。

教員の指導をもらって、普段はあまり使用しない点滴用の針など物品を途中から見学できるようにした。特に針に関しては高校生も興味が強いようだったので、物品はいろいろな種類をできるだけ用意しておく、その違いなども実際にみることでできるのではじめから準備しておくといよい。

また、当初は計画していなかったが、注射針のキャップをはめたままの状態、高校生にモデル人形に採血をする動作を行ってもらった。手に触れるだけでなく、実際看護学生をまねて声掛けなども行ってもらった。高校生は恥ずかしがっていたが、そばについて説明すると興味深そうにしていたので、今後はあらかじめ計画に取り入れるべきだと感じた。ただ、注射針のキャップが外れない、また高校生が外さないように常に注意が必要である。

オープンキャンパスで採血のブースを設けるのははじめてだったので、当日に急遽物品を用意したりと計画不足な部分があつた。次回も行うのであれば、今回の反省も活かしつつ、あらかじめ具体的に計画をたてる必要性を感じた。



オープンスクール

創傷処置担当の振り返り

創傷処置担当 新治悠美夏

学び：学校または病院以外でも使うことが多い技術もあり、今回のことを通して改めて学びなおすことができた。高校生と看護学生では視点が違い、実施している様子や質問を通して物事の捉え方の違いについて気付くことができた、説明を行うことの大切さを再確認することができた。講義や技術チェック以外ではあまり使うことが少なかったため、学生自身再確認を行うことができた。



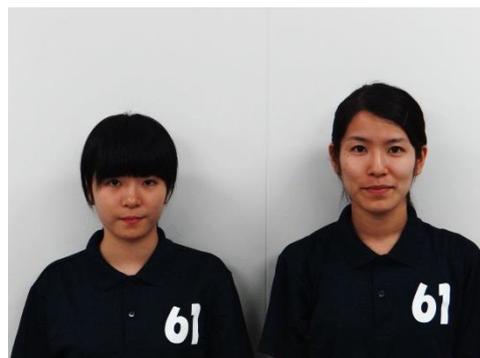
オープンスクール

沐浴担当の振り返り

沐浴担当 隅井成美・筒井佑香

今回は、ひとつひとつ行動の根拠を浅くしか学ばずに行ったが、きちんと根拠をしっかりと分かった上で実施を行うことで、不安な気持ちがなく進行することができるのではないかと思った。

しかし、午前グループ・午後グループ共に、グループ内で協力して最後まで楽しんでもらえるように努力し、やり遂げた。今回、不足していたことを次回に改善することで、対象者の方に沐浴体験をしていただけるのではないかと思った。



オープンスクール

ハンドマッサージの振り返り

沐浴担当 福原里紗

今回オープンスクールハンドマッサージを企画し、多くの方々に楽しんでいただきました。音楽を流したことやアロマキャンドルを使ったことにより、リラックスした空間をつくることができました。また、畳やベッドを使うことで様々なシチュエーションでの体験をしてもらうことができ、「気持ち良かった」「家に帰ってやりたい」などの感想を多くいただくことができました。しかし、タオルが不足したり、教えることが難しかったりと、反省点も多く見つけられました。そのため、この反省点を生かして次回はもっとより良いものにできるよう改善していきたいです。今回は来ていただいてありがとうございました。



浜田医療センター附属看護学校ホームページ

Happy-Hamakan-News(学校だより)のアンケート結果

平成 26 年 7 月 25 日 榎休前日に、ホームページと Happy-Hamakan-News についてのアンケート調査を実施しました。対象者は本校の学生 120 人です。回収率はホームページ 89.1%、Happy-Hamakan-News については 88.3%でした。

結果は次の図 1.2 に示します。

HP は、どの項目も「非常に良い」か「良い」との回答が 70~90%を占めていました。この結果と HP の閲覧データと合わせて、学生に活用できる HP の企画を考えて情報を掲載していきたいと思います。

また、Happy-Hamakan-News については、回答項目③ビジュアルが楽しい、⑦情報が信用できる、あるいは⑧十分な情報が含まれている、⑤親しみがわく、の項目の評価が高い結果でした。今後本校の学生も読みたくなる、あるいは学生自身が HHN に積極的に記事を掲載できるよう、学生を主体的に情報発信できるシステムを創っていききたいと思います。

また工法としてどのような方に読んで頂けているのか対象を広げて調査をしていききたいと思います。皆様に楽しみにして頂けたり、当校の教育についてご意見を頂けるような工法をし、当校の教育の質を高めていけるよう取り組んでいきたいです。

図 1. HP についてのアンケート結果

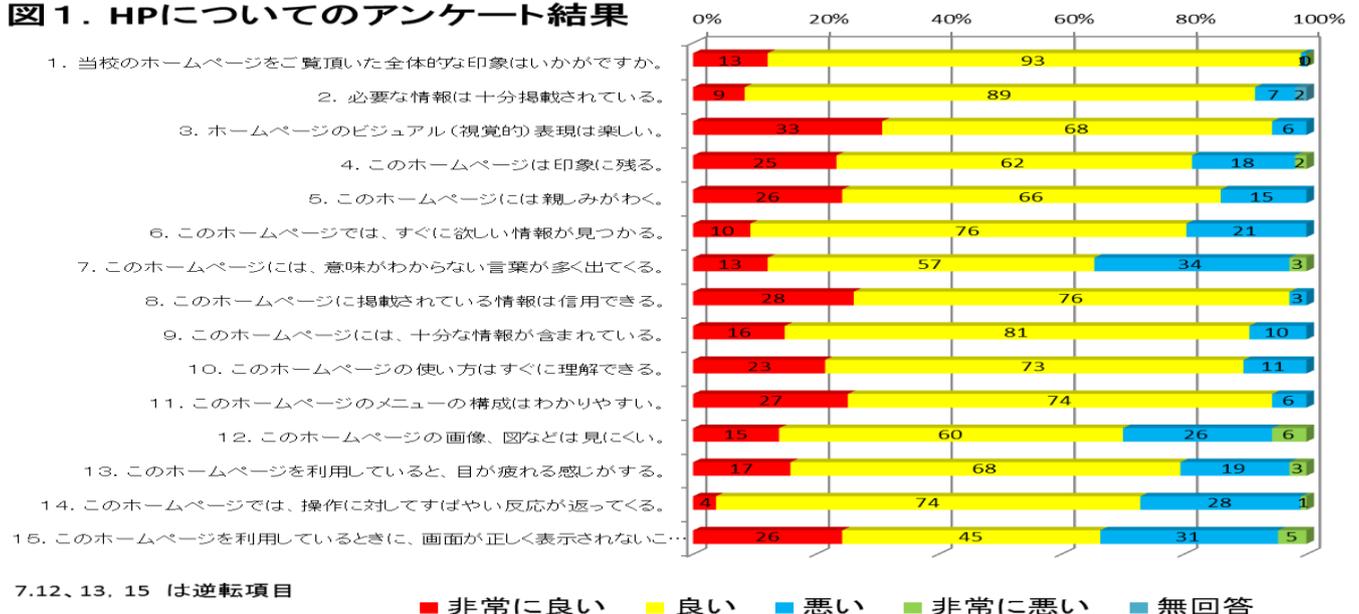
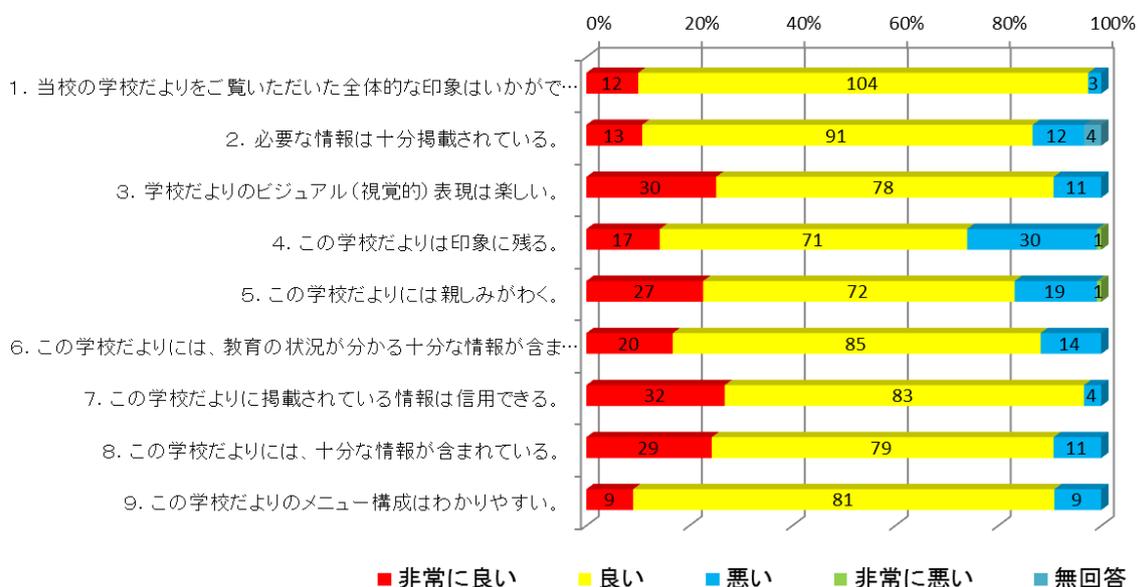


図 2. 学校だよりに関するアンケート結果



ハイ・ステージ港町よりお願い

浜田ビルメンテナンス株式会社

※ ハイ・ステージ港町には専用の自動車の駐車場はありません。

ハイ・ステージ港町周辺の方々から自動車の駐車について、苦情が弊社に寄せられております。保護者の方が止められる場合には許可証をお渡ししますので、勝手に止めずに必ず事前にご連絡ください。

※ ゴミの分別、名前の記入、収集日の確認の徹底をお願いします。

ゴミの分別がされていなくて、ステーションに残された状態
張り紙がされて、何日も放りっぱなし・・・



無記名で分別されていないゴミが、ステーションに出されています。ごみ分別早見表でよく確認し、部屋番号、名前は必ず記入して収集日に出して下さい。

残された自分のゴミは、一度持ち帰り分別しなおしてから、再度収集日に出して下さい。

お知らせ

1年生2年生学会参加について

【学会名】日本医療マネジメント学会
第13回島根県支部学術集会

【日時】平成26年9月27日(土)
9:30~15:00

【会場】石央文化ホール

【対象】61期生(38名)

【目的】学会に参加し、島根県下でどのような医療が実践されているのかを知る。
研究を通して看護の本質を考える。
学会運営の実際を見て、自己の企画運営能力を研鑽する。

【学習の視点】

1. 島根県下で行われている医療や看護実践、看護研究について学ぶ。
2. 学会参加で得られた学びを、今後の看護研究、看護研究演習でさらに深め、研究的視点で看護に取り組む土台をつくる。
3. 研究活動を通して看護の本質を考えると、具体的にどう実践されているのかを学ぶ。

今後の予定

- 9月22日(月) 3年生東京アカデミー看護師
国家試験模擬試験
- 9月27日(土) 山陰マネジメント学会(浜田)
1・2年生出席
- 10月15日(水) 特別推薦入学試験
- 10月16日(木) 3年生学研看護師国家試験模擬試験
- 10月16日(土)・17日(日) 学校祭(17日は駅北フェスタ同時開催)
- 10月21日(火)~24日(金) 3年生看護研究発表
- 10月27日(月) 3年生統合実習開始
(~11月28日(金)まで)
- 11月11日(火) 一般推薦入学試験
- 12月4日(木) 3年生学研看護師国家試験模擬試験
- 12月10日(水) ナーシングセレモニー
- 12月17日(水) 災害訓練
- 12月19日(金) 終業式(~1月6日まで冬休み)

日本医療マネジメント学会 第13回島根支部学術集会

【医療の効率化を目指して】
~機能分化と医療連携~



会期：平成26年9月27日(土曜日)
会場：石央文化ホール
浜田市黒川町4175番地
TEL 0855-22-2100
会長：石黒真吾
(国立病院機構浜田医療センター院長)

編集後記

祝 全米選手権で松江出身の錦織圭さんが、快挙を成し遂げました。島根県人として本当にうれしいニュースで、力をもって9月の始業を迎えました。

さて夏休みもあっという間に過ぎました。夏休み中3年生はケーススタディ(看護研究)と国家試験対策で、力を付けました。充実した日々を過ごし、成果も期待されます。9月22日(月曜日)に模擬試験を受けます。

2年生は老年・小児看護学実習が始まり、基礎看護学実習での学びである、看護を追究する姿勢が活かされています。1年生は高校時代の旧友と出会い自分の価値観や学習観を広げて帰ってきました。実りの秋、切磋琢磨して成果を上げ、看護の質の向上を目指した取り組みをご報告できるようにしたいものです。(KN)



オープンキャンパスや受験情報など詳しいお問い合わせは



0855-28-7788

浜田 看護学校

